

鈴鹿ベイロータリークラブ

例会日 木曜日 18:30～19:30
例会場 鈴鹿サーキットホテル
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992
鈴鹿サーキットホテル
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



人類に
奉仕する
ロータリー



第1229回 例会報告 (2016年9月15日)

講師例会

クラブ奉仕部門担当

■司会 / 大泉博典 S A A ■ロータリーソング / それでこそロータリー

■ゲスト / 鈴鹿市文化スポーツ部 スポーツ課副参事兼振興グループリーダー 鈴木明 様
鈴鹿市文化スポーツ部 スポーツ課 国体推進室長 今村隆之 様

■会長挨拶 / 平野泰治 会長

本日は、午後から稲生小学校で、飯盒炊飯をしてきました。私が所属する稲生農地・水・環境を守る会の活動として、5年生の米づくりの体験学習の仕上げです。田んぼを起こし、田植えをし、田んぼの様々な役割、防災や環境を守るなどを学び、そして、稲刈りや脱穀を体験します。そして、自分たちで作ったお米を飯盒で炊き、私たちにおにぎりを振る舞ってくれます。この一年間で、子どもたちは大きく成長します。家庭が農家の子どもが、この授業を通して、今では農家であることを誇らしく思うようになる様をみると、この国の農業の将来にも明るさを感じます。我々のクラブが続けてきました「おじさん先生」の大切さも改めて認識をしました。今回は、鈴鹿市の文化スポーツ部の方に、この後、2018年の高校総体、2021年の三重国体に向けての取組についてお話いただきます。子どもたちの夢にも繋がる大会に向け、私たちとしてもできることを考える契機にしたいと思います。

■幹事報告 / 川岸憲博 幹事

(1) 10月8日(土)第30回ふれあい広場鈴鹿、前日準備10月7日(金)にご参加いただける方がお見えになりましたらご協力をお願い致します。

(2) 来週の例会はお休みです。

■出席報告

例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
9月15日	12名	10名	2名	83.33%

2週間前の補正後出席率 12名中 1名 91.67%

■ニコボックス

平野泰治……パラリンピックが始まりました。感動します。今日は、東京五輪の翌年に開催の三重国体の話もあります。

宮崎弘夫……「月みる月はこの月の月」中秋の名月を見れて、ロータリーの例会に感謝。

川岸憲博……中村さん先日はありがとうございます。

遠藤龍夫……奨学金に少々。

■例会 / 平野泰治 会長

本日の例会では、平成33年に行われる三重国体と毎年当鈴鹿サーキットで行われる鈴鹿シティマラソンについてゲストスピーカーの方々にお話しいただきます。

第76回 国民体育大会 三重とこわか国体

平成33年に三重県で国民体育大会が開催されます。

この開催基本構想は、大会の開催及び開催準備に向けた基本目標とその実現に向けた主な取組などを明らかにするものです。この開催基本構想を活用して、県民の皆さんのご理解とご協力をいただきながら開催準備を進めていきます。

基本目標「県民力を結集した元気なみえの創造」

本県で開催する国体が、スポーツを通じて人びとに夢や感動を与え、県民の皆さんの一体感を高めるとともに、人と人、地域と地域の絆づくりが進み「活力に満ちた元気なみえ」につながる大会をめざします。

基本目標の実現に向けた3つの柱

県民力を結集する国体 県民の皆さんが、競技会等を「する」「みる」「支える」といったさまざまな関わりを持つことで、県民力を結集した大会をめざします。

創意工夫を凝らした国体 市町、県体育協会・競技団体や関係機関、さらには、広く民間主体も含めた各機関の協力のもとで、既存施設を有効に活用しながら、大会運営の効率化と、その内容の充実に向けた取組を進めます。

おもてなしの心を形にする国体 三重県の美しい自然と豊かな伝統や文化を再認識し、“三重県の魅力”を全国に発信するとともに、県民の皆さんが、三重県を訪れる人びとをおもてなしの心で温かく迎えることにより、交流の輪を広げていきます。

みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。



鈴鹿シティマラソン

毎年、12月に開催される冬の風物詩「鈴鹿シティマラソン」。参加ランナーが選ぶ「全国ランニング100撰」に、度々選出されるほど親しまれたスポーツイベントです。F1日本グランプリが開催される、鈴鹿サーキット国際レーシングコースを走ることができ、毎年、各地から多くの方に参加していただいています。親子で参加できるコースから、本格的なハーフマラソンまで様々なコースがあるので、是非、レーサー気分でレーシングコースを走ってみてください。

競技後には、参加者を対象に、海外・国内旅行が当たる大抽選会も開催されます。



今年も歴代の名ドライバーを虜にした世界最高峰のコースに挑む

1962年。本コースは日本初の本格サーキットとして誕生しました。F1日本グランプリやSUPER GT、鈴鹿8時間耐久レースなど世界から注目を浴びるモータースポーツの闘いが1年を通じて開催されます。歴史を知り、その足跡を感じることで、この聖地に足を踏み入れたとき、スターティンググリッドに立ったとき、あなたはこれまでに感じたことのない、胸の高鳴りに気づくことでしょう。楽しみ方は、あなた次第。12月18日（日）19回目のスタートシグナルは、既に灯っています。さあ、世界に誇れる最高のステージを駆け抜けましょう。鈴鹿ベイロータリークラブの皆様には、ご支援を心より感謝申し上げます。